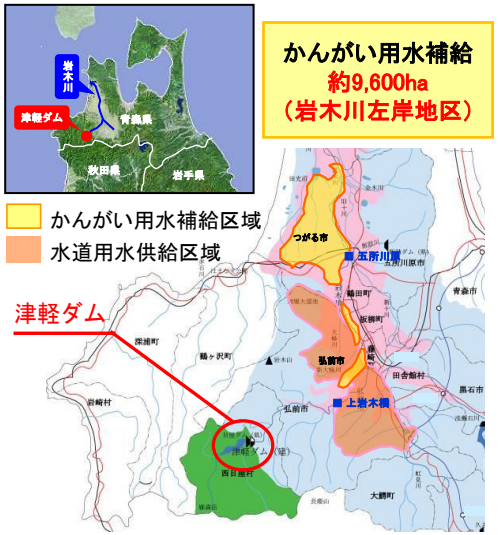
令和7年渇水における津軽ダムの効果

◆津軽ダム流域の6～7月降水量は、H29（2017）年管理開始以降の平均に対して約50%と少なく、特に7月は同管理開始以降の最少値となる36mm/月（平均に対して約19%）を記録した。
◆少雨の影響により、貯水位は7月上旬～8月上旬にかけて平年を下回り急激に低下し、8月17日には今期最低の貯水率18．3%（平均※1に対し－32．2%pt）まで低下した。
◆かんがい用水、水道用水、河川維持用水の安定供給のため多様な関係者との調整・連携により、6月～8月で総量約60百万立方メートル（東京ドーム約49杯分）の利水補給を実施した。
（目屋ダムが利水補給していた場合は7月4日で貯水率がゼロとなり出穂期（7/28～8/8）の補給が不能となったものと推測）

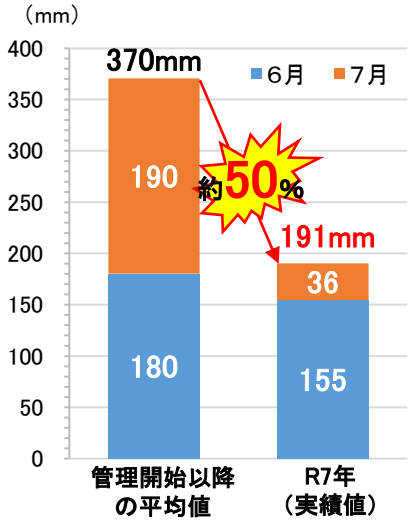
※1　管理開始以降8ヶ年（H29～R6）の8月17日　9時時点における貯水率の平均

津軽ダムからの用水補給区域



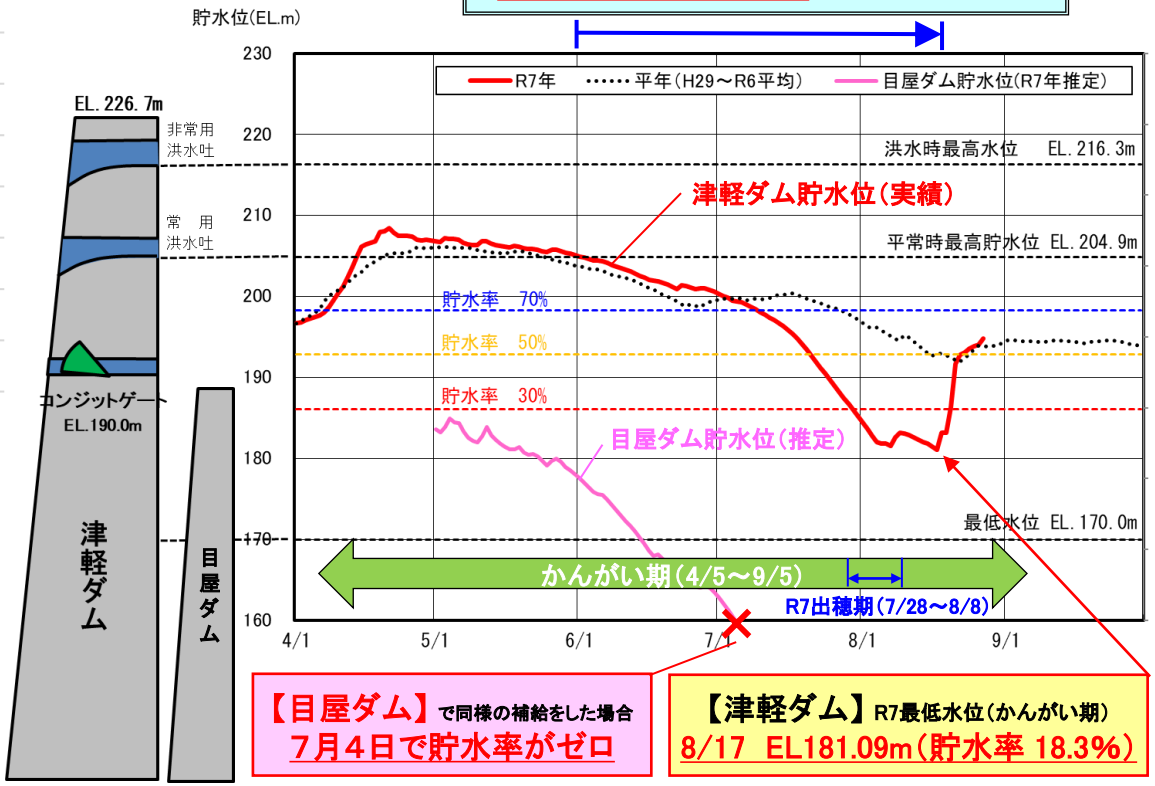
かんがい用水補給
約9,600ha
（岩木川左岸地区）

津軽ダム流域降雨量（6～7月）



津軽ダム貯水池運用実績図（令和7年）

津軽ダム利水補給総量
約60百万立方メートル ※東京ドーム約49杯分





平均※1に対し
−32.2%pt



【目屋ダム】で同様の補給をした場合
7月4日で貯水率がゼロ

【津軽ダム】R7最低水位（かんがい期）
8/17　EL181.09m（貯水率 18.3%）

※1に相当する貯水位：EL192.94m　【R7最低水位（かんがい期）】 EL181.09m（R7.8.17）